

委員会 の審査から

総括質疑



渡口 禎 委員長



小林 裕恵 副委員長

6年度決算議案は、決算等審査特別委員会（渡口禎委員長、小林裕恵副委員長）に付託され、全体会議及び分科会で慎重に審査しました。ここでは、9月25日に行った全体会議での総括質疑の主な質疑と答弁の要旨について掲載しています。



録画配信はこちら

姉妹都市盟約50周年の記念事業「三都絆祭」で各市の魅力等を発信した。

問 三都絆祭※1は多くの来場者があり、盛況であったと感じたが、効果は。

答 アンケートでは来場者の9割超が満足と回答したほか、出展者からは地元観光等を紹介する良い機会だったとの声があった。姉妹都市の魅力を知ってもらうという目的に、一定の

姉妹都市の効果的な周知は



多くの来場者でにぎわう三都絆祭のようす

成果があったと考えている。姉妹都市のPR動画を制作した効果は。

答 YouTube等で公開したほか、こども科学館でも放映し認知度向上に効果があったと考えている。

オンライン手続きの拡大等により市民の利便性向上と、業務効率化を図った。

問 DX推進計画等の取り組みの中でも、オンライン申請率は目標達成に苦慮していると考えるが、達成状況はどうか。

答 6年度のオンライン申請率は28・7%であった。今後も関係所管と連携しながら、デジタル推進課が伴走型の支援を進め、着実にDX推進に取り組んでいく。

問 デジタル地域通貨事業の基本方針では、地域コ

DX推進の取り組み状況は

答 三都絆祭をはじめ複数のイベント等の参加者にポイントを付与したほか、ボランティア謝礼等にも活用した。

問 ポイント付与にとどまらず、さまざまな事業で活用方法を工夫してほしいが、今後、事業運営をどのように展開していくのか。

答 都公式の東京アプリの動向も注視しながら、効果的に事業目的達成につながる手法を検討していく。

児童・生徒の才能を伸ばす機会提供のほか特別支援教育の指導体制を整備した。

問 国の研究事業を実施し、プログラミングや芸術の分野に特異な才能のある児童・生徒を対象に、市内大学と協働して講座を行ったが、その効果は。

答 自身の得意分野の知識や技能が高められたほか、関連分野への興味関心の広がりや、コミュニケーション能力向上の効果もあった。その結果、他の児童・生徒と協力して活動する姿勢が

児童・生徒の学びの充実は

育まれ、苦手なことにも積極的に挑戦するなどの成長が見られた。

問 市の第五次特別支援教育推進計画で推進するインクルーシブ教育※2の充実には、教員の指導力の強化が重要と考えるが、市はどのように取り組んだのか。

答 特別支援学級等の教員を対象に研修を行い、学校内の組織的な支援体制構築を進めた。また、専門家を講師とした習熟度に合わせた研修を通じて、教員の理解を深め、専門性の向上に努めた。

観光地域づくりの役割を担う八王子観光コンベンション協会へ補助を行った。

問 市は、外郭団体である八王子観光コンベンション協会に補助を行ったが、本協会の独自性をいかした運営ができるよう、どのように支援していくのか。

答 本協会は、地域の多様な関係者との連携等により培われた専門性と実行力をいかし、観光情報の発信等の中心的な役割を担って

外郭団体の独自性をいかす取り組みは



地域資源活用で観光振興を図る八王子観光コンベンション協会

いる。本協会とビジョンや課題等を共有し、連携強化を図っており、引き続き市の目指す姿の実現に向け、本協会が独自性や専門性をいかした運営ができるよう、適切な支援に努めていく。

※1 苫小牧市・日光市との姉妹都市盟約締結50周年を記念し、6年に東京たま未来メッセ等で開催したイベント

※2 障害の有無等にかかわらず、すべての子どもが同じ場で学び合えることを目指した教育